

平成 18 年 6 月 17 日

武庫川流域委員会 委員長 松本 誠 殿

「武庫川ダム案 環境への影響検討」への意見書

委員 村岡浩爾

「§ 2 環境への影響検討に際する条件の整理」の部分について意見を述べます。

1 試験湛水に関して

試験湛水に関して、湛水期間が長ければ自然環境に及ぼす影響は大となり、短ければ所定の試験の遂行に影響があったり急激な水位変化のために起こる障害があったりすることを踏まえ、以下の点について意見を述べたい。

- (1) 水位低下速度は「1日1m以内」、上昇時は「制限なし」とあるが、この「1m以内」とする根拠は何か。上昇速度が大きい場合、問題ないか。
(注：1日1mの上昇とみると、1日1000ミリの雨が湛水部分に降ると同じ量である。従って、何だか大きい数字のように思われる。)
- (2) 流入量を低水量特性から $5.0\text{m}^3/\text{s}$ と設定しているが、これよりも大きい流量の時はその水量で溜めることになりそうである。そうすれば湛水期間(上昇時)は短くなるが、急激な水位上昇に対し、構造物、地盤、斜面等にどのような注意が必要か。たとえ安全であっても留意すべき事項はあるはず。
- (3) 湛水期間中はどのような試験をするのか。ダム本体、基礎岩盤等では歪み、間隙水圧等が埋め込みセンサーによって測定されるとみられるが、ダムサイト上流川の湛水区域については、どのような試験や測定を行うのか。特に斜面の剥離や滑落の危険性、地山そのものの水分変化等に関してどのような試験や測定をおこなうのか。
- (4) 計画のように湛水すれば、約40日で湛水し終えることとなる。もし流入量が少なければこの期間が延びることとなる。過去10年間程度で、11月から12月にかけての実績流量(あるいは予想された流量)によって、湛水がどのように進んだか、シミュレートしてみたい。

2 ダム完成後の流況等について

- (1) 洪水の規模とそれによる最高の湛水面の水位の関係が、資料では判りにくい。従って、ダムサイトから上流のハイキングコースの沿って3点程度の代表地点を決め、その地点まで水位が上昇するのは年に何回か(あるいは何年に一度か)と言う形で整理してみたい。同様に、その地点より上方、5m、10m、20m、30m・・・また、下方、5m、・・・という水位になる頻度についても示してほしい。
- (2) 岸辺の流速を平均流速の50%と見るのは、あまりにも小さすぎないか。広い河原の流れならいざ知らず、出水時で、しかもV字谷である渓谷ではもっと大きいはず。(注：三面張り水路では80~90%か。) こういうときこそ安全度を高めたおかないと、側岸の植生や浸食に対処できない。

以上